

平湯川砂防樹林帯導流堤工事における積載防止対策について

工事名 平湯川砂防樹林帯導流堤工事
会社名 蒲田建設株式会社
工期 平成18年 7月 5日
～平成19年 1月 31日
現場代理人・監理技術者 内藤 一彦



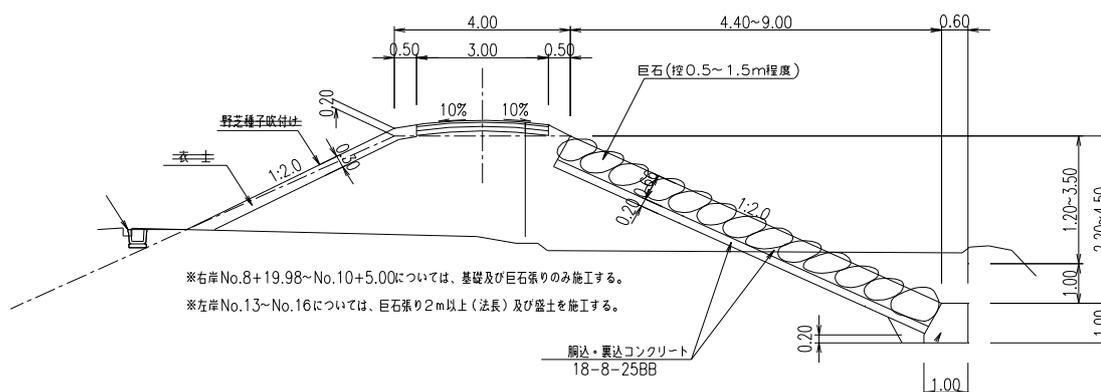
1. はじめに

本工事は平湯川砂防樹林帯の整備を目的とし、巨石を主要資材として使用し、景観に配慮した導流堤（流路護岸）を施工する工事です。

原則として護岸は現地採取の巨石を使用しますが、不足分は購入巨石となります。

また、導流堤は土砂の運搬（運搬距離 1.5km）が必要となります。

巨石、土砂の運搬には大型ダンプを使用しますので、その過積載防止と安全対策について報告します。



2. 工事概要

右岸上流

土工	掘削 580m ²	盛土工 2,900m ³	埋戻工 1,300m ³
護岸工	基礎工 115m	巨石張工 541m ² (現地採取)	
		巨石張工 479m ² (購入)	
水路工	水路設置 102m	集水柵設置 2箇所	
階段工	1式		

右岸下流

土工	床堀 210m ³	埋戻工 130m ³
護岸工	基礎工 25m	巨石張工 190m ²
階段工	1式	

左岸

土工	床堀 50m ³	埋戻工 40m ³	盛土 590m ³
護岸工	巨石張工 283m ²		
水路工	水路設置 60m	集水柵設置 1箇所	
階段工	1式		

3. 過積載防止と安全・訓練について

過積載がどうしてもいけないかを、重大事故に繋がる危険性及び道路交通法の罰則資料等を配付して関係者に理解してもらいました。

ダンプトラックへの積載量に関しては、適正積載量を実際に目視・確認する事が必要と考えて、当社所有のトラックスケールを利用して積載巨石個数及び盛土材の積込量を試験計量し下記の通り基準値を設けました。

過積載防止には、積込オペレーター及びダンプトラック運転手の認識が不可欠なので、関係者の立会いで積込基準の徹底を図ることにしました。

積込基準 (10tダンプの場合)

巨石	巨石 5～6個 標準径1.0m
盛土材	荷台枠より積載しない

※「盛土材につき、思ったより積載できない」



感想－沖田君

巨石積込状況

巨石 5個



巨石計量状況

計 量 7.24t

最大積載量 9.



土砂積込状況

計 量 9.05t

最大積載量 9.10t



4. 過積載防止について

(1) 巨石について

購入巨石は、全車トラックスケールで計量して、過積載防止に努めました。

巨石の形状はひとつひとつ異なりますが、標準的な巨石を基準にして個数で管理したことが、わかり易く関係者の理解を得たようです。

なお、現地採取巨石の場内運搬についても、社内基準値の積載個数の徹底を図り安全に努めました。

(2) 盛土材について

盛土材積込箇所とトラックスケールとの距離が離れているため、全車計量はできないので、積込箇所では荷台枠以上に積込まないことを確認し、一週間に一回の頻度でトラックスケールにおいて計量しました。

5. おわりに

過積載防止のほか、大型ダンプ通行時のホコリ対策として、散水をしました。夏期の為すぐ乾いたところから、その対策として塩化カルシウム散布の実験を試み良好な結果を得られました。

また、一般道通行の際は道路を汚すため、窪みを利用して水を張りタイヤの洗浄を行い、さらに散水による道路清掃も合わせて実施しました。

最後になりましたが、ご指導いただきました監督職員の皆様と工事関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

塩化カルシウム散布状況



道路の窪みを利用したタイヤ洗浄

